

## 研究テーマ「聞く力を伸ばし、思考力を高めるために、学び合い活動を

### 取り入れた授業の展開」

八頭町立八東中学校

#### 1 はじめに

本校は、一昨年度から授業改善に取り組み、生徒の主体的な学習を促すために学び合い活動に取り組んでいる。その結果、自分の考えを出し合って積極的に学ぶ姿勢が見られるようになり、授業に活気が生まれるようになった。

本年度は、新たな研究の手法「アクション・リサーチ」を学び、それを取り入れて継続的な授業改善に取り組んでいる。

#### 2 研究のねらい

生徒の主体的な学習を促すために、次の点を改善することをねらいとした。

- ① 聞く力を向上させるために、生徒同士が聞き・話す活動である学び合い活動を授業に取り入れる。
- ② 授業のねらいを明確にするために、学習目標の設定と生徒の振り返り活動に取り組む。
- ③ アクション・リサーチに取り組み、授業の改善点を明確にし、成果を検証するとともに実践の共有を図る。

#### 3 研究内容

##### (1) 学び合い活動を取り入れた授業の展開

昨年度に続き、学び合い活動を促進するために、学び合いの過程を次の4段階で捉えた。

段階	活動の視点
発想	自分の考えを持つこと
表出	自分の考えを仲間に伝えること
比較	自分の考えと仲間の考えとを比較して、共通点や相違点に気づくこと
練り上げ	仲間といっしょに考えを深めたり、自分の中で考えが深まったりすること

そして、研究授業を行う際には、事前に教科の枠を外したメンバーで指導案検討会を持ち、研究のねらいが反映されているかを検討した。

##### (2) 本時の学習目標の設定と生徒の振り返り活動

- ①授業の最初に、本時の学習目標を生徒に分かりやすい言葉で板書または提示した。
- ②授業の終わりに、生徒が授業を振り返る活動を行い、学習目標の妥当性と授業の展開との整合性を検討した。

##### (3) 授業評価の工夫

昨年度から始めた視点を定めたKJ法の観点を次の3点にした。

- ア。「学習目標と振り返り」：授業のねらいが明確か、また、振り返りの活動は適切であり、授業の整合性はよいか、を評価する。
- イ。「学び合い活動」：学び合い活動の設定は適切か、生徒の活動はよいか、また、教師の支援は適切か、などを評価する。
- ウ。「改善の方策」：アクション・リサーチの仮説にあたるもので、生徒の実態を改善するために授業で行った手立てについて評価する。

例：デジカメの動画を使ったマット運動の授業

	良い点	課題	改善点
学習目標	教師の示範	評価の視点を与える	示範に評価例を加える
振り返り	がよかった		
学び合い活動	雰囲気が大変よかった	深まりが足りなかった	助言のポイントを説明
改善の方策(動画)	動画の活用で学習意欲が高まった	動画への興味が先行していた	動画を活用するねらいを確認する

#### (4) アクション・リサーチの導入

アクション・リサーチとは、大学の研究者によるような絶対的な真理の研究（授業改善の方策を一般化）するのではなく、授業者による自分のクラスの問題解決を研究するものである。

本校では、スーパーバイザーの広島大学大学院教育学研究科木下博義准教授の指導の下、別紙（資料1・2）のような様式を用いてアクション・リサーチに取り組んでいる。

#### 4 スーパーバイザーの役割

スーパーバイザーの木下博義准教授には、研究授業を参観していただき、本校職員が視点を定めた KJ 法によって授業の評価を出し合った後で、指導講評をしていただいた。また、夏期休業中と冬期休業中に1回ずつアクション・リサーチに関する研修会を持ち、アクション・リサーチの進め方について指導していただいた。

##### ○夏期休業中の研修内容

その場で、自らの授業を振り返り、リサーチ・ペーパーの「テーマ」、「問題」、「リサーチ・クエスチョン」、「仮説」、「検証方法」までを記入した。そして、これを基に、2学期に授業実践を行った。今回は、初めてのアクション・リサーチなので、各自が取り組みやすいテーマを取り上げて行った。

##### ○冬期休業中の研修内容

2学期に実践したことをリサーチ・ペーパー（「実践」、「検証結果」、「成果」、「課題」）にまとめて全員が実践報告を行った。そして、一人ひとりに木下准教授から指導助言をいただいた。全体に共通する指導は、次の通りである。

- ・アクション・リサーチで自分自身を振り返り、授業改善を形に残すことが大切である。
- ・仮説はできるだけ1つに絞った方がよい。
- ・検証方法はできるだけ複数の方がよい。それも量的検証（テストやアンケートなど）と質的検証（観察や感想文など）を併用した方がよい。

- ・事後の結果だけでは、成果があったかどうかの判断が難しいので、事前調査を行い、事前事後で変容を見なければいけない。
- ・たとえ検証結果がよくなかったり、検証方法そのものが適切でなかったりしても、それが明らかになったことで次の課題が明確になる。うまくいかなかったこともそのまま書くことが大切である。

#### 5 研究のまとめ

##### (1) 成果

- ①学び合い活動に取り組んだことで、授業に活気が出て、生徒の学習姿勢が積極的になった。
- ②この授業改善に取り組んだ結果、生徒の学校生活アンケートの結果がよくなった。
  - ・先生は授業で教え方にいろいろ工夫してくれる…91%
  - ・学校で好きな授業がある…84%
  - ・学校の授業は分かりやすい…82%
- ③教科の枠を外した指導案検討会と視点を定めた KJ 法を活用することによって、学校全体で研究を進めることができた。
- ④アクション・リサーチの手法を取り入れることにより、個々の授業改善の結果を全体で共通理解しやすくなった。

##### (2) 課題

学び合い活動を取り入れたことによって、授業に活気が出て、生徒の授業態度は活発になったが、学習の質そのものが主体的になっているとは限らない。今後は、授業の内容そのものも視野に入れて授業改善を進めていきたい。

#### 6 おわりに

アクション・リサーチは個々の実践を記録していくのにとっても有効な手法である。これを活用して授業改善の蓄積と実践の共有化を図っていきたい。そして、主体的な学習から探究的な学習へ教科の授業を発展させ、総合的な学習の時間との連携を目指したい。

## アクション・リサーチ

所属 ( 八東中学校 ) 氏名 ( )

対象・単元	学年・組 <u>第 2 学年 A・B 組</u> 生徒 <u>36</u> 名		
授業改善のポイント	単元名 <u>New Horizon English Course 2 Let's Read "A Magic Box"</u>		
テーマ	教師の朗読により、繰り返し英文を聴くことで英文への習熟を高める指導の工夫		
改善したい生徒の姿	1 年の教科書は、本文が全て対話文で、一文が短く、音読から暗唱へは比較的楽にできていた。しかし、2 年の教科書には、リーディング・フォー・コミュニケーションというまとまった文章のパートがあり、音読から暗唱への移行が難しくなっている。		
問題 (生徒の実態)	授業改善のねらい (質問形式)		
リサーチ・ クエスチョン	どうすれば教科書の文章量が多くなる中で、英文の習熟度を高めることができるだろうか。		実際に授業でしたこと
			事前事後の変容が大切
仮説	検証方法	実践	検証結果
教科書の読解指導に、教師の朗読をペースリーダーとした黙読を多用して英文を繰り返し聞かせれば、英文への習熟度を高めることができるのではないかと。	①授業で、ペアで行うリーディング・チェックで獲得するスタンプの数を確認する。 ②生徒にアンケートを実施し、朗読を何度も聞くことが英文の音読や暗唱に有効かどうかたずねる。 ③毎時間の授業の振り返りカードに記入した生徒の記述を読み取る。	教科書の読解指導を 3 段階分けて行った。 ア. 英文のタイトルを考える。 イ. 日本語の問いに答える。 ウ. 英語の問いの答えを考える。 アでは、朗読を 3 回、イとウでは各設問に 2 回ずつ朗読をしている間に読み取りをさせた。 その後に、音読練習を行い。最後に、ペアでリーディング・チェックを行った。 その結果、与えるスタンプの数は、暗唱：4 つ、日本語のヒントをもらって暗唱：3 つ、リード・アンド・ルックアップ：2 つ、音読：1 つとした。	①1 学期は 1 ページ平均 2.5 個のスタンプだったが、2 学期は平均 3.4 個となった。文章が長くなり、スタンプの数を最大 3 つから 4 つに 1 つ増やしたが、平均もほぼ 1 個分増えている。 ②複数回答で、「英文の読み方が分かった」58%、「音読がやりやすくなった」45%、「英文の内容が理解しやすかった」30%、「質問の答えが考えやすかった」18%、「暗唱がやりやすくなった」15%、「特に変わったことはなかった」6%、「その他」3% ③毎時間の振り返りカードには記述はなかった。
具体的な改善の方策 (検証がしやすいように、できるだけ 1 つに)	量的検証 (テストなど) と質的検証 (感想など)		
検証結果を受けた成果と課題 (うまくいかなかったことが次の改善点につながるのでそのままを記述しましょう。)			
成果 (研究全体を通しての成果)	スタンプの平均獲得個数は、1 ページの文章が長くなっても大きく減っていない。教師の朗読により、暗唱がやりやすくなったと直接の効果があつた生徒は 5 人だった。多くの生徒には、「英文の読み方が分かった」、「音読がやりやすくなった」という暗唱への間接的な効果であった。教師の朗読は何も効果がなかったと答えたのはわずか 33 人中 3 人であった。このことから、生徒が英文の読解をしている時に、教師の朗読を聞かせることは英文の習熟に効果があると言える。		
課題 (AR から明らかになった次の課題)	同じアンケートで、33 人中 31 人 (94%) の生徒が音読はできると答えている。しかし、暗唱ができると答えた生徒は 10 人 (30%) である。できない理由 (複数回答可) は、「単語は覚えられるが、文になると覚えられない」が 23 人中 17 人 (74%)。次に、「単語の発音はできるが、覚えられない」と「英文の意味がうまく読み取れないので暗唱することができない」が同じ 3 人ずつ (13%) であった。このことから、次の課題は、音ではなく、英文の構造に習熟させることである。事前アンケートをして変容を見る必要があつた。		

## アクション・リサーチのねらいと記入の要領

## 【ねらい】

- ① アクション・リサーチは、普段、何気なく行っている授業の工夫や改善をリサーチ・ペーパーに書き出すことで意識的に行い、実践を積み上げていく手法です。
- ② アクション・リサーチは、検証を行うことで、成果と課題が明確になり、より効果的に授業改善を行い、教師の授業力を向上させるものです。
- ③ アクション・リサーチは、リサーチ・ペーパーを通して、互いの実践を知り、共有できるものです。
- ④ アクション・リサーチは、リサーチ・ペーパーを保存することで、教育実践のポートフォリオとなり、PDCA サイクルを進める上でとても有効な手法です。

## 【記入の要領】

- ① テーマは、本校の研究主題の下に、リサーチする授業改善のポイントを副題として書いてください。
- ② 問題（生徒の実態）は、テーマを取り上げた理由として、改善すべき生徒の姿を書いてください。
- ③ リサーチ・クwestionは、授業改善に取り組むねらいを質問形式で書いてください。  
例：「どのような指導をすれば、〇〇ができるようになるか。」「〇〇力を高めるには、どのような指導をすればよいか。」「〇〇することは、△△を育成するのに有効だろうか。」など  
＜チェックポイント＞
  - \* 現状のどこが問題で、何ができる生徒になってほしいか。
  - \* それは大部分の生徒が、努力すれば達成可能なレベルか。
  - \* 具体的に対策が思いつくか。それは授業で実施可能か。
  - \* 目標の達成を評価する場面が確保できるか。
- ④ 仮説は、「〇〇すれば△△になるのではないか。」と具体的に改善の方策を書いてください。できるだけ一つの改善策に絞りましょう。二つのことを取り入れると、何が効果を生んでいるのか検証しにくくなります。つまり、何がどうよかったのか、わかりにくい結果になることが予想されます。
- ⑤ 検証方法は、実践をした後に成果を判断する方法を書いてください。効果を検証するには、「仮説に書いたこととの対応」を取ることが必要です。指導したことに対して、どのような方法でデータを取って、それをどう分析すれば効果があったかわかるのか、具体的に書くようにしましょう。実際の授業場面や分析作業をかなり具体的にイメージしておきましょう。  
例：アンケート、生徒作品、筆記テスト、実技テスト、観察、インタビュー など  
＜チェックポイント＞
  - \* 何を、いつ、どこで実施するか予定を立てておく。
  - \* 無理なく実施できる方法を考える。
  - \* 生徒の感想（質的検証）とテスト（量的検証）のようにできるだけ複数の検証方法を用いる。

次の⑥～⑨は、実践を終えた後に書きます。実践期間は、単元一つでも、毎時間の実践でも構いません。

- ⑥ 実践は、改善の方策を、いつ、だれに、何を、どのようにしたか、を書きます。
  - \* 生徒に配付した資料やワークシートがあれば添付します。
- ⑦ 検証結果は、検証の方法とその結果を書きます。
  - \* 検証に用いたアンケート用紙やテスト用紙があれば添付します。
- ⑧ 成果は、リサーチ全体を振り返って、改善された点、効果のあった点を書きます。
- ⑨ 課題は、リサーチ全体を振り返って、改善が不十分だった点、効果がなかった点を、考えられる理由とともに書きます。これが、次のアクション・リサーチの課題となります。

（木下先生の指導による。参考図書：『はじめてのアクション・リサーチ』、『アクション・リサーチのすすめ』）